

太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2023. 1

「最初」が肝心



写真は太田家恒例の、「正月父子ミーティング」。

これからの1年、これからの将来について、“真剣に”親子で話し合いました。会社など組織の発展に定期的なミーティングは欠かせません。組織の発展には現状を踏まえて、問題を棚上げせず、議論し合う必要があります。

「家族も組織」です。しかし、話し合っている家族は少ないと感じます。家族の今の問題点、その問題に対する解決策、それぞれの将来の在り方など深く話し合うことなく、ただただ事務的な事(何を食べる?週末はどこ行く?)ばかりだから「まとまりのない家族」になってしまう。

新年、パッ！と頭にひらめいた言葉が

「最初が肝心」

「最初」を誤ると、「最後」が最悪になりかねない。

例えば、料理や子育て。

最初の“だし”作りを失敗すると、その後どんな高級食材を具にしても美味しい汁物にはなりません。

昭和時代、『スポック博士の育児書』なるものがベストセラーになりました。それまでの日本人の子育ては誤っていると、否定されました。

- ・授乳は早期に中止すべき。
- ・添い寝はダメ。ベビーベッドで寝せるべき。
- ・赤子がどれだけ泣き叫んでも無視すること。
- ・抱き癖がついてはいけない。極力、抱っこしないこと。

当時のお母さんたちは戸惑いながらも、アメリカ人のスポック博士の言うことを信じて、そのように子育てしました。

その結果、人を信じることが出来ない、自分に自信のない日本人が増えました。晩年、そのスポック博士は「自分の子育て論は誤りだった」と認めています。

最初を誤ると、後年、その修正にはかなりの時間と費用を要します。誤ってしまったことを後悔し続ける人生にもなりかねません。

「最初が肝心」。それは健康問題にも関係します。

太田東西薬局のお客様に、特に誤ってほしくない最初の対処法があります。

それが「発熱」。

風邪を引いた時に出る、熱。

その発熱に対して、子育ても以下の2つに分かれます

A：早く解熱剤を飲ませて、とにかく早く熱を下げなければ！

B：病原菌と闘っている発熱。温めて発汗させて応援しよう！

太田東西薬局のお客様は、もちろん「B」の選択をさせていただいていると信じたいのですが・・・まだまだAを選択される方々が多いようで(^-^);

発熱の初期対応（最初の対処法）を誤ると風邪をこじらせます。
スッキリと治らない、微熱が続く、咳がずっと続くなど。

身体が発熱するという事は、体内に侵入して来たウイルスを退治するための「自然治癒力」です。攻めてきた敵をやっつけようとする「正当防衛」です。

しかし・・・・・・・・

それを信じる事が出来ず、あるいはその知識なく、「発熱＝悪」と決めつけてすぐに薬（化学薬品）を使って、熱を下げようとする。
解熱剤服用は、自らの自然治癒力を妨げる行為でもある。

子どもはたびたび風邪を引いて、たびたび熱を出して、病原菌に“もまれて”
強靱な免疫力を獲得していくものです。

今のお母さん方は、そうした知識がないというよりも、子どもの自然治癒力を信じ抜くことが出来ないのだと思います。

「大丈夫！」と思えない。治癒していく経過を「待てない」。

さて、新型コロナウイルス騒動も今年で3年になろうとしています。
海外ではすでにノーマスク・ノーワクチン、事実上コロナは終息しているのに
日本はいつまでマスク着用、ワクチン接種を推奨するのでしょうか？

解熱剤・抗生物質など薬を多用して病気に向き合う西洋医学の欧米人が
早々にマスク・ワクチンを手放し、“ウイズ・コロナ”を選択した。
一方、自然界の薬草を駆使して自然治癒力を引き出し、病気を克服して来た
東洋医学の日本人が、いまだコロナを恐れ、忌み嫌らっている。

何の疑い迷いなく5回目、6回目とワクチンを打ち続ける日本人というのは
自らの自然治癒力（免疫力）を信じられないのでしょうか。

日々、免疫力を高める習慣に意識が向かず、すぐに薬に依存してしまう。
学者や医者といった権威に弱く、盲信し、自分で調べて考えようとしません。

「最初」の選択決断には、「依存心」「恐怖心（怖がり・小心者）」という
その人の「心の弱さ」も大きく影響します。

話を「正月父子ミーティング」に戻します。😊

父は息子たちに言いました。

結婚相手に対して、これだけは
口出しさせてもらう！
『健康観』の合わない相手との結婚は
断じて認めない！
それは自分のエゴからではなく
先々誕生するでお前たちの子どもが
不幸な目に遭うからだ！



自分が好きになった相手と、愛し合って結婚する。それは幸せなことだけど
アイ・ラブ・ユーの幸せは、次第に薄れていくものだ。
最初は相手の欠点が見えず、見えてもそれに寛容に対応しようとする。
しかし一緒に生活していく中で、相手と自分の「価値観の違い」に戸惑い
イライラし、些細なことで衝突するのが結婚生活の現実だ。

その衝突しかねない「一番の違い」が、『健康観』『治療』だと思う。
我が家はお前たちがそう育って来たように、病気を悪とせず、化学薬品で症状
をすぐに抑えようとせず、自然治癒力を応援する初期対応をして来た。それが
「漢方」ということだ。西洋医学を否定するわけではなく、「最初は東洋医学」
がモットーであり、お前たちもそれは理解してくれていると思う。

仮に、お前たちの結婚相手と、我が家の健康観が大きく異なった場合……。
一番の被害者は「子ども」だ！ それは断じてあってはならない。

結婚して、子どもを授かって養育していく中で、必ず子どもは病気になる。
子どもが風邪を引いて発熱した時、結婚相手がすぐに解熱剤を飲ませることが
正しいとして我が家の健康観を否定するなら、あるいは昨年からはまった乳幼
児へのコロナワクチン接種も疑問なく打たせる考えならば……………
「お父さんはそうした相手との結婚は絶対に認めません！！！！」

といった自分の考えを投げかけました。
先々、衝突したくない、後悔したくないから。

何事も「最初が肝心」！

健康観を確認し合い、満場一致した我が家と
太田東西薬局をどうぞよろしくお願い致します。

